

災害に強い森づくりを知る

このページでは、今回のルートにまつわる土砂災害防止や森林整備の取組みなどについてご紹介します。(下記①～③の場所は表面地図を参照)

①砂防ダム

六甲山を歩いているとよく目にするこのような構造物。名前を「砂防ダム(治山ダムと呼ばれるものもあります)」と言い、豪雨の際に下流への土砂や流木の流出を抑える重要な働きを担っています。過去に戦乱や過度な伐採などではげ山になった六甲山では、明治期以降こうした砂防ダムなどの整備が進みました。今では、2000基以上の砂防ダムなどが六甲山系に作られ、人々の生活を守っています。

炭ヶ谷砂防ダム



②炭焼き窯跡

右の写真は、炭ヶ谷の登山道脇に残された「炭焼き窯跡」です。かつて人々は、日常的に森に入り、薪や炭になる木を伐って、日常生活の燃料として使っていました。

しかし、昭和中期のエネルギー革命以降、こうした薪炭利用はなくなり、森に人の手が入らなくなりました。その結果、鬱蒼とした暗い森林へと変化していき、結果として土砂災害にも弱い森林となってしまいました。

過度な伐採利用だけでなく放置も問題で、土砂災害などのリスクを高めることに繋がります。適度な伐採は、森の更新を促す重要なものです。

炭焼き窯の石積みの跡



③災害に強い森づくり

神戸市では、土砂災害の防止などを目的として、六甲山系をはじめとする市域の森林で、災害に強く豊かな森をつくるための森林整備事業を行っています。

整備により明るくなった森林

森林リフレッシュ事業



緊急防災林整備(斜面对策)

